

ことですが、お祭にもならないような悲惨な状況と
いうのがありましたから、お祭でもちゃんとしたお
祭りをしたいと考えました。

かなり記念祭というのが衰退している時期に僕らの
時期があったものですから、レベルの低い話ですけ
れど、こっちからレベルを下げて後ろから押すよう
な形にしようというのが僕の考え方でした。

「絆」というテーマなんですけど、最初僕は「宝島」
というテーマを出しました。皆に受け入れられ易い
んじゃないかなあと考えたのですが、幼稚なんじゃ
ないかと否決されてしまいました。結局、「絆」になっ
たのですが、何の「絆」かというのと、代議員とかそ
ういう関係でもっと交流を深めていい記念祭にしたい
なあと願い、「絆」を考えました。

平井 僕は39回から41回まで3年間とも執行委員
として記念祭をやってきました。自治会展示の質の
悪さとか、一般生徒が参加しないということがあり
ました。39回は文化部展示と自治会展示が同じ日で、
40回は分かれているんですよ。41回ではもう一回
くっつきました。僕らは40回で文展と自展を離れた
ら盛りあがるんじゃないかということでやってみま
した。結果はぐちゃぐちゃでした。自展1個ではも
たないんじゃないかという状態まで来ていました。
自展の単独日程を復活させなければいけないなど
思っていたのですが、僕らの代でできなかったのが
心残りでも今でも悔やんでいるのです。現役がいろ
いろと考えてやってくれると期待しています。

6 月記念祭の実施

山本 40回の記念祭も無事に終わり、そのあと執
行部はしばらく何もありません。その時期に過去の
記念祭に関係することを読んでいたら昔から時期
の変更とか春秋分離案とかの意見が出ていたとい
うことが分かりました。そこへ、そろそろ真剣に考
えてみようじゃないかという話が生徒課の先生から
もちあがりました。そこで一つ考えて腰を上げてみ
ようということで、僕らの代から話し合うことにな
りました。

なぜ変えたかという趣旨は、生徒課の先生と僕の見

解ではかなり違っているのですが、1つは記念祭が
終わったあと、「受験が控えてなかったらもっと楽し
くできたのに」という声を3年生の先輩から、1年
の時も2年の時も聞いてました。特にギター研は時
期が早かったらもっとちゃんと練習ができたのに、
このままではいい参加が望めないという意見があり
ました。2つには、自治会展示にしても、3年生は
一番力があるにもかかわらず、推薦入試等の関係で
十分記念祭に力が入らない、けれどやりたいしなど
進路に支障をきたしながら記念祭にも支障をきたす
というどっちつかずの記念祭をやっていました。そ
の他にクラブも足腰が立たなくなっていました。運
動部は活発なところは活発なのですが、文化部特に
展示系に関してはちょっとしんどいなあとというのが
ありました。時期が変わったら何か変わるんじゃない
かなあ、という安易な考え方で変えてみました。
最初は、危険すぎるということで、執行では11対1
で負けてしまったんですが、得意のわがままで「一
株一票や。株主や」と押ししてしまいました。刺激が
欲しかったんですね。たまたまうまくいったからよ
かったようなものの、これでちょっとしたきっかけ
で間違っただけ踏みはずしたら後々の代から「41代
の執行部是最悪だった。あいつらのせいで記念祭は
終わってしまった」と言われるようなことも内心覚
悟しながら、恐る恐るやりました。

結果としては、内容的にはかなり充実した記念祭
だったと思います。僕らは2回目なので、40回記念
祭が終わった時点で、自分のパートではこんなこと
がしたかったとか、あんなことが本当はできたなど
かということがうまくできました。

内容なんですけど、さっきかなりレベルを下げるこ
とに力を入れると言ったんですが、一致団結して楽
しいことをしてくれとみんなに呼びかけました。2
日目、ユニフォームのファッションショーをやりました。

デコレーションは審査1位とか2位とか決めるの
に、ユニフォームは審査しないんですよ。デコレー
ションもしんどいけど、ユニフォームも女の子が頑
張って作るのに、表彰もないんじゃないかきみすぎるな
というので、これも審査したいなと思ったんです。

体育館もできたことですし、自分が会長になってそれをやってみようと考えました。1クラス男女2名ずつ整列し、ユニフォームのファッションショーをやって採点しました。これは結構生徒のウケが良かったので続くのではないかと思います。つまり遊び的要素を強調しました。閉幕祭でも、パーンとピストルが鳴って風船が百ぐらい飛ぶとか、内容よりも視聴覚的なところにおもしろさを求めました。本当に姑息な手段なんですけど、生徒の関心がなかったら、やっていることがどれだけ素晴しくても意味がないなあということで、視聴覚的な楽しみに重点を置いてやりました。

平井 さっき彼は11対1で否決されたと言っていましたけど、その時の反対派の頭が僕だったんですよ。ことあるごとに僕と彼はいつも反発していました。それがこの2代のエネルギーだったんです。記念祭が終わってみて今から考えてみると、成功してよかったなという感じだったんです。

文化部長の方の立場から言いますと、3年生はまだ部活にいますし2年生もいますが、1年生が入ってきたところで参加できないんですよ。こんな状態で果してちゃんとできるのだろうかと非常に不安になりました。文化部幹事会でも、その時の理事は金延先生ではなくてもう変わられた中村忠先生だったんですけども、中村先生と何回も話し合いました。文化部幹事会の方でも、公演系の演劇部とかギター研とか吹奏楽部とかが練習時間が足りないじゃないか、ということでした。でも押ししてみようという彼の意見がでまして、結局強引なまでにやったんです。一応、幹事の方も納得してもらいましたが、かなりハードだったと思うんです。無理やり文化部公演の方もやりました。

上の代と違いこの代は楽しさを求めるといいますか、内容よりも停滞しているのを盛り上げようという考えで動いてきました。僕は3年間やった中で一番生徒が盛り上がったんじゃないかと思います。さっき山本会長が言いましたように、ユニフォームのファッションショーをつくる時はかなり無理があったんですよ。前日にリハーサルがありましたけど、ぐっちゃぐちゃになったんですよ。もう1年生の執

行委員とかは悲愴な顔をしてました。彼もその時は不安だったんですが、一生懸命一晩かかって資料を書きまくって出来ました。「盛り上げる」という点に関しては確かに盛り上がりました。

良い悪いはいろいろあると思うんですけど、内容を重視するタイプの人からしたら「なんやあれ、おもしろいだけやんか」という人もいるかもしれませんが、僕としてはおもしろくないよりおもしろい方がいい。僕らがやるよりも生徒がやるのだから楽しい方がいいと考えてきたので、平成元年は、かなり奇抜な変わった記念祭で良かったんじゃないかと思っています。自分としましては、この3年間で41回の記念祭を自分で出来たことをうれしく思っています。

山本 最近になって変わってきたことでもう1つ思い出したのですが、フォークダンスがあります。僕の1代前灘井会長の代から強制のフォークダンスというのになりました。それは、全員集会のように並ばせて2列になって1列につなげるんですよ。それを1周まわしてから踊るといようなフォークダンスを始めました。

平井 そのフォークダンスになったいきさつなんですけど、その前の代でメンバーチェンジをしないというので、体育科の中井先生をはじめとする先生方に怒られたそうなんです。来年からフォークダンスの指導は体育の授業でしないと切り切られました。次の年も当時の副会長の増田君が何度も体育科の先生にお願いに行っただんですが、結局指導はしないとされました。無しにしてしまうのは悲しいというので、そのような形態をとるようになったんです。

山本 全員参加でないからフォークダンスをしないというわけなので、それだったらとりあえず全員参加させないとあかんということになりました。でも1年目は僕は閉幕祭の運営委員だったんですが、前日の夜の9時になってもまだタイムテーブルができていないという状況でした。第1回の強制のフォークダンスは悲惨でした。皆は当然自由に好きな人と踊れるものだと思ってたんですけど、3年生の先輩が「何やコレはフォークダンスじゃない。誰が言い出したんや」と文句言われました。すごい反

対の運動が一部で起こり出して、どうやって收拾をつけようかというようなことになってしまい、失敗に近い形で終わりました。

来年は俺がやっつて絶対に成功させるんだ、と決意を新たにし僕は会長になってもう一回取り組んだんです。安定するまでの準備期間になったらいいなという感じでやっつたんです。全校集会のように並べて、男女各1列になって誘導する時も皆素直についてきて自然と並ぶわけですよ。それでフォークダンスが始まったんです。ところが難しい誘導ができたにもかかわらず大失敗なんですよ。一言「ちょっと輪を広げて下さい」と言うと、輪が完璧にくずれてしまったんですよ。修正するのに時間がかかってしまい、結局僕らの手ではうまくできなくて、3年生だったこちらにおられる水野さんに手伝っていただいて、なんとか收拾がついたという感じでした。でも2回目にしては最後はちゃんと踊れましたし、うまいこといったんではないかと思います。

そしてもう一つ、フォークダンスはメンバーチェンジをしないから反対されるのだ、メンバーチェンジしないのに反対だったら初めからメンバーチェンジしなければいいのではないかと僕は考えて、パートナーチェンジをしないでもいいフォークダンスというのを普通のフォークダンスの前に設けました。それと普通のフォークダンスとは時間は別々だったんですけど、普通のフォークダンスの時もパートナーチェンジしないでいいのかなあとみんなに思われてしまいまして、結局もとに戻ってしまいました。

高木 ありがとうございます。

大仁 40回も続いた記念祭の時期を変更したのは大変なことですから学校側の話をちょっとおきます。時期変更つまり1学期にもっていけとか、期間短縮つまり5日は長すぎるから4日にせよ3日にせよという話は以前からあった問題です。この話は10年前の山本健さんの代の春秋分離案にさかのぼるけれど、もっと以前、僕は15期生なんだけど、あの頃に1週間やっていたのが6日になり、5日になりました。その頃からずっと続いている問題です。結局、今年は期間は変えずに時期を動かしたのは、期間の5日間を4日間にする行事内容の変更を大

きく迫ることになるから、たぶん自治会には認めないだろうということになりました。そこで時期を動かすことになったんだけど。

時期を動かせと言われる大きな理由は進学や受験の問題、学力向上の問題がありました。3年の学年主任や担任が学年を終わられた段階で期間を短縮せよとか、1学期にやれとかいわれる。それから進路課の方からも同じ話が強くでてくる。その理由は昭和64年度から新テストが導入されるということと、推薦制が普及ししかも推薦の時期が9月か10月くらいから入ってくるという入試制度そのものの変化もある。就職する子の場合は9月からすぐに就職試験があって、記念祭の真っ最中に試験を受けるというようなこともあったので、進路課からもより強く期間短縮や時期変更の話が出てきたわけです。

何故このような話が最近強く出てきたかという背景を考えると、まず第1には第2次ベビーブームの影響で、5、6年前から受験生の人数が増え、この2、3年が最高になり、受験競争の激しさがピークになるということです。第2には日本人全体が豊かになり大抵は大学に行かすようになってきたから、ますます受験競争が厳しくなってきた。こうした社会的な背景が芦高に影響し、その分だけ受験の問題が極めて強く出てきた。

ところが話は進学指導の問題とか学力向上の問題に一気にいかずに、記念祭の時期と期間という格好ででてきた。生徒課の中でもいろいろ議論があって、記念祭の時期を変えることには生徒課の先生はほとんど反対だったですね。ところが、進学成績が相対的に下がってきたということも背景にあって、芦高のどこかの部分が動かなければ芦高全体に変化がない、記念祭とか自治会活動を含めた芦高全体を見直さなければならないという雰囲気になってきた。その結果、特に記念祭の時期や期間が問題となり、約10ヶ月余りの議論の末、結局時期を動かすことになったんです。

それを正式に執行部に申し入れたのは2月初めだったかな。そこから執行部が本式に動き出したから、執行部は大変だったと思います。